

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作・大豆情報（第 7 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第 7 号）」を送付しますので、
業務の参考にしてください。

1. 気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R7 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R7 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R7 (hr)	平年比 (%)
7月	1	25.4	29.5	4.1	29.2	34.3	5.1	22.4	25.6	3.2	90.3	0.0	0.0	16.3	55.7	341.7
	2	26.1	29.3	3.2	30.1	35.7	5.6	23.0	25.5	2.5	83.2	11.5	13.8	20.3	47.5	234.0
	3	26.7	27.7	1.0	30.9	32.7	1.8	23.5	24.7	1.2	61.9	10.5	17.0	24.2	32.5	134.3
	4	27.3	27.9	0.6	31.8	32.4	0.6	23.9	24.6	0.7	43.1	72.5	168.2	28.0	30.7	109.6
	5	27.7	30.0	2.3	32.5	36.0	3.5	24.2	25.6	1.4	36.2	0.0	0.0	31.4	64.0	203.8
	6	28.1	30.1	2.0	33.0	36.4	3.4	24.5	24.7	0.2	39.2	0.0	0.0	41.0	75.4	183.9

○ 7 月 6 半旬の平均気温は、平年に比べて 2℃ほど高く推移した。降水はなく日照時間は平年比 183%と多い。

2. 水稻情報田の生育状況（調査日：7 月 30 日）

項目 品種(設置場所)	年 次	草 丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 6/21 移植 武雄市橘町 ※2	本年値	60.7	416	10.5	36.9	・草丈は平年比94%と低い。 茎数は平年比92%と少ない。 ・主稈出葉数は平年より、 0.7少ない。 ・葉色は淡い。
	前年値	72.7	446	11.2	40.6	
	平年値 ※2	64.4	451	11.2	40.2	
	平年比	94	92	-0.7	-3.3	

※1 さがびよりの平年値は H21～R6の平均値

※2 本年移植日 6 月 21 日 平年移植日 6 月 21 日

栽植密度 14.8 株/㎡

項目 品種(設置場所)	年 次	草 丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
ひなたまる 6/25 移植 白石町	本年値	51.8	481	11.5	40.7	

栽植密度 18.6 株/㎡

○農業試験研究センター米づくり情報5号 7月30日（抜粋）

本年産水稻の生育状況（7月30日）

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本／m ²	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年または前年との比較)
6月18日	夢しずく	本 年	77.9	363	11.5	40.5	【気象】 7月23日～29日まで ◆平均気温…2.9℃高い ◆日照時間…長い (平年比 176%) ◆降水量…少ない (平年比 0%) 【生育】 ◆草丈 全品種で高い。 ◆茎数 「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は少なく、「ひなたまる」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「夢しずく」は平年並み、その他の品種はやや進んでいる。 ◆葉色(SPAD 値) 「夢しずく」はやや濃く、「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」は平年並み、「ひなたまる」はやや淡い。
		平 年	72.6	415	11.5	39.1	
		平年比(差)	107	87	(±0)	(+1.4)	
	ヒノヒカリ	本 年	70.3	462	11.9	39.7	
		平 年	66.4	545	11.5	40.1	
		平年比(差)	106	85	(+0.4)	(-0.4)	
	ひなたまる	本 年	70.4	453	12.2	41.3	
		前 年	62.0	335	12.0	42.8	
		前年比(差)	114	135	(+0.2)	(-1.5)	
6月20日	さがびより	本 年	70.0	579	11.8	40.3	
		平 年	63.3	535	11.6	39.9	
		平年比(差)	111	108	(+0.2)	(+0.4)	
	ヒヨクモチ	本 年	66.3	893	12.3	40.2	
		平 年	58.5	824	12.1	40.8	
		平年比(差)	113	108	(+0.2)	(-0.6)	
留意点	○「夢しずく」は幼穂形成期を迎えているため、穂肥診断に基づき遅れないように穂肥を施用する。 ○「ひなたまる」「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」等の中晩生品種は、中干しが終わり次第、間断灌水に切り替える。茎数が少ない圃場では中干しはやや軽めにとどめ、幼穂形成期前には終了する。 ○病害虫の発生に注意する。農業技術防除センターの情報を参考にするとともに、圃場の観察により防除を的確に行う。						

注1)「夢しずく」、「ひなたまる」、「ヒノヒカリ」は、6月18日移植の稚苗(播種期 5/26, 播種量 湿粃 180g/箱)

「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月20日移植の稚苗(播種期 5/27 播種量 湿粃 180g/箱)

2) 栽植密度: 「夢しずく」は、条間 30 cm × 株間 17 cm, 19.6 株/㎡(65 株/坪)

「ひなたまる」は、条間 30 cm × 株間 18 cm, 18.5 株/㎡(60 株/坪)

「さがびより」は、条間 30 cm × 株間 20 cm, 16.7 株/㎡(55 株/坪)

「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間 30 cm × 株間 15 cm, 22.2 株/㎡(73 株/坪)

3) 栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。

3. 管内の生育状況（7月30日時点）

1) 普通期水稻 : 分けつ盛期～穂ばらみ期である。

日照時間が長く、高温で推移した。平年と比較し草丈は低く、全般に葉色がさめた圃場が目立つ。茎数が多い圃場と少ない圃場でバラツキがある。(ガス害等の圃場では少ない)

4. 今後の管理

1) 普通期水稻

- ・移植後、気温が高く推移したことで雑草の生育が早く、除草剤の効果が十分発揮できていない圃場も確認されている。特に「ホタルイ」や「ヒエ」の発生が多い。その場合、中後期除草剤の散布も視野にいれる。使用の際は、高温条件が続いているので、薬害を助長しないため、温度が下がった夕方に散布を行う事。（収穫前日数に留意して使用する）
- ・中干しは、異常高温が続いているので、期間を短めにし、白乾状態にならないように気を付ける（軽くひび割れが入り足跡が残る程度とする）。茎数が少ない圃場では中干しは軽めにとどめる。
中干しが終了した圃場では間断灌水を実施する。

① 夢しずく

- ・6月中旬に移植された「夢しずく」は、まもなく幼穂形成期を迎え穂肥施用時期となる。
- ・幼穂形成期から出穂期にかけては要水量が増加する時期である。
穂孕み期から穂揃期は湛水（浅水）管理とする。

穂肥の施用に際しては、下記の穂肥診断基準に基づいて適期適量施用する。

- ・「夢しずく」は、幼穂が1～2mmになるまでは伸長が緩慢であるが、3mm以上になると急激に伸長する。
穂肥施用時期が遅れないように注意する。

【表1 夢しずくの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色			穂肥施用時期		
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分:kg/10a)	
7 3 cm 以下	淡い 標準 濃い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1mm	2.0kg/10a
		3.0～3.5	34～38	18～20 日	2mm	1.5kg/10a
7 3 cm ～ 7 9 cm	標準 濃い	3.8 以上	39 以上	穂肥は施用しない		
		3.0～3.5	34～38	18～20 日	2mm	1.0kg/10a
		3.6 以上	39 以上	穂肥は施用しない		
8 0 cm 以上	穂肥は施用しない					

② ヒノヒカリ

- 「ヒノヒカリ」は、8月5～8日頃に幼穂形成期を迎え、穂肥施用時期を迎える見込み。
下記の診断基準により穂肥診断を必ず行い、適期適量の施用につなげる。
全量一発肥料を使っている場合でも、葉色がさめている際は、穂肥を行う。

【表2 ヒノヒカリの穂肥診断基準】

草丈 cm 幼穂形成始期時	葉 色			穂肥施用時期		
	群 落	SPAD	出穂前	幼穂長	穂肥施用量 (N成分)	
8 0 cm 以下	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	3.0kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	3.0kg/10a
	濃い	3.5～3.8	38～39	16 日	5～15mm	2.5kg/10a
	濃い	3.8 以上	40 以上	15 日	15～30mm	1.0kg/10a
8 0 cm 以上	淡い	3.0 以下	34 以下	20～22 日	1～2mm	2.5kg/10a
	標準	3.0～3.5	34～38	18～20 日	3～5mm	2.5kg/10a
	濃い	3.5 以上	38 以上	穂肥は施用しない		

③ さがびより

○「さがびより」は、8月10日頃から幼穂形成期を迎える見込み。

幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の診断基準により穂肥を施用する。
全量一発肥料を使っている場合でも、葉色がさめている際は、穂肥を行う。

【表3 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg／10a
		群 落	SPAD			
穂肥診断時	7 5 cm以下 (標 準)	2.5以下	33以下	5ミリ	20～18日	2.5kg
		3.0	33-37	10ミリ	18日	2.0kg
		3.5	37-38	15ミリ	16日	1.0kg
		3.8以上	39以上	施用しない		
	7 5 cm～ 8 0 cm	3.0以下	36以下	10ミリ～15ミリ	18～16日	1.5kg
		3.0以上	37以上	施用しない		
	8 0 cm以上	施用しない				

④ 「ひなたまる」

・「ひなたまる」は、8月5～8日頃に幼穂形成期を迎え、穂肥施用時期を迎える見込み。
・施用時期が遅れないように次の穂肥施用のポイント（草丈・幼穂長）に基づき、穂肥を施用する。全量一発肥料を使っている場合でも、葉色がさめている際は、穂肥を行う。

★「ひなたまる」の穂肥施用のポイント

- ・出穂前18～20日（幼穂の長さ5mm程度）に施用。
- ・草丈が80cm以下の場合、窒素成分で3kg/10a（BB602で20kg/10a）を施用する。
- ・草丈が80cm以上85cm未満の場合は、地力に応じて減肥する。
- ・草丈が85cm以上の場合は、穂肥施用は控える。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない

2) 病虫害の発生状況

①いもち病

【普通期水稻】

- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」や「ごま葉枯病」の温床になるため、すみやかに除去する。

②紋枯病

- ・8月の発生量は、平年よりやや多い予想である。
- ・発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展（垂直進展）する時期に防除を徹底する。
（液剤、粉剤の場合は出穂10～20日前を目安とする）
- ・病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

- ・特に「ひなたまる」は紋枯病に弱いので、適期防除を徹底する。

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
水稻 (早期)	紋枯病	並	斑点米カメムシ類 
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稻 (山間早植え)	穂いもち	並	クモヘカメシ ホリハカメシ
	紋枯病	やや多	
	トビイロウンカ	並	
	コブノメイガ	やや多	
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稻 (普通期)	穂いもち	並	 トビイロウンカ イネカメシ
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウンカ	並	
	コブノメイガ	やや多	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	
	1. 斑点米カメムシ類 水稻の出穂 10 日前までに畦畔を含めて除草を行うとともに、乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）を中心に薬剤防除を行う。多発生の場合は穂揃い期とその 7～10 日後に薬剤防除を行う。		
2. イネカメシ 他の斑点米カメムシ類と異なり、水稻の出穂始めに籾を吸汁して不稔を生じさせることから、出穂前に本種の発生を認めた圃場では、通常の斑点米カメムシ類の防除適期である穂揃い期～乳熟期の防除だけでなく、発生状況に応じて出穂期の防除を行う（令和 7 年 7 月 14 日付け病虫害対策資料第 8 号参照）。			
3. 紋枯病 近年、多発傾向にあるため、各圃場における発生状況を確認し、発生を認めた圃場では病斑が上位の葉鞘に進展する時期（液剤、粉剤の場合は出穂 20～10 日前を目安とする）に防除を徹底する。			
水稻全般	1. トビイロウンカ 本種の発生状況は、田植え時期、水稻の品種、地域、これまでの防除の違い等によって異なるので、発生予測図（共通-図 1）を参考にして、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、幼虫ふ化揃い期の防除を実施する。		

表 斑点米カメムシ類の水田におけるすくい取り調査結果（早期水稻：白石町）

				20回すくい取り虫数（調査日：令和7年7月1日）												
調査地点	（関係者限り）	品種	生育 ステージ	イネカメシ		クモヘカメシ		ホリハカメシ		シラホカメシ類		アサジミカスミカメ		アサヒゲホソミドリ カスミカメ		ミナミアオカメシ
				成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫
A-1	白石町湯崎 1	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3		0
A-2	白石町湯崎 2	コシヒカリ	出穂期	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1		0
A-3	白石町湯崎 3	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0		0
A-4	白石町湯崎 4	コシヒカリ	出穂期	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0		0
A-5	白石町湯崎 5	コシヒカリ	出穂期	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1		2
A-6	白石町湯崎 6	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		3
B-1	白石町馬洗	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2		0
C-1	白石町堤 1	コシヒカリ	出穂期	0	0	6	0	0	0	0	0	7	0	4		0
C-2	白石町堤 2	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		0
C-3	白石町堤 3	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0		0
D-1	白石町遠江 1	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	2	0	1	0	24	0	1		0
D-2	白石町遠江 2	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	2		0
D-3	白石町遠江 3	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	1	0	0	0	11	0	1		0
D-4	白石町遠江 4	コシヒカリ	出穂期	0	0	0	0	2	0	0	0	6	0	0		0

③斑点米カメムシ類

- ・8月の発生量は、平年よりやや多い予想である。
- ・出穂後の除草は、水田に斑点米カメムシ類を誘い込み被害に繋がるため、出穂10日前までに畦畔除草を行う。
- ・山麓部や河川敷付近など、例年発生の多い圃場では田廻りを励行し、防除を徹底する。
- ・防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

④ウンカ類

- ・セジロウンカとトビロウンカは6月16日～23日に飛来が確認されている。
- ・コブノメイガは6月16日頃から飛来が確認されている。飛来量は下表のとおり。（表4）
- ・発生予測は随時更新されるため、最新情報は佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照。
- ・今後の飛来状況や圃場での発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

〈表4 海外飛来性害虫（トビロウンカ・セジロウンカ）誘殺状況〉 佐賀県農業技術防除センターHP 参照

表1 イネウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2025年)

月	日	トビロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ					
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県					長崎県
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラップ (20W蛍光灯)	フェロモン トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラップ (20W 蛍光灯)	フェロモン トラップ
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	2日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	3日	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0			0	0
	4日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	6日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	9日	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0			0	1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	12日	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0			0	0
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	14日	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0			0	3
	15日	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0	0
	16日	0	2	0	0	3	9	0	0	0	0	0		1	7
	17日	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0		1	1
	18日	0	0	0	0	3	4	0	4	0	0	0		0	0
	19日	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0		6	0
	20日	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
	21日	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	22日	0	1	0	0	0	26	0	1	0	0	0	0	0	0
	23日	0	2	0	0	2	126	2	0	0	0	0	0	0	0
	24日	0	0		0	2	139		0	0	0	0	0	0	2
	25日	0	0		0	2	12		0	0	0	0	0	0	1
	26日	0	0		0	1	8		0	0	2	0	0	1	0
	27日	0	0			0	7			0	0	0	0	1	
	28日	0	0			0	1			0	0	0	0	1	
	29日	0				0				0	0	0	0	1	
	30日	0				0				0	0	0	0	1	

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。

6月29～30日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

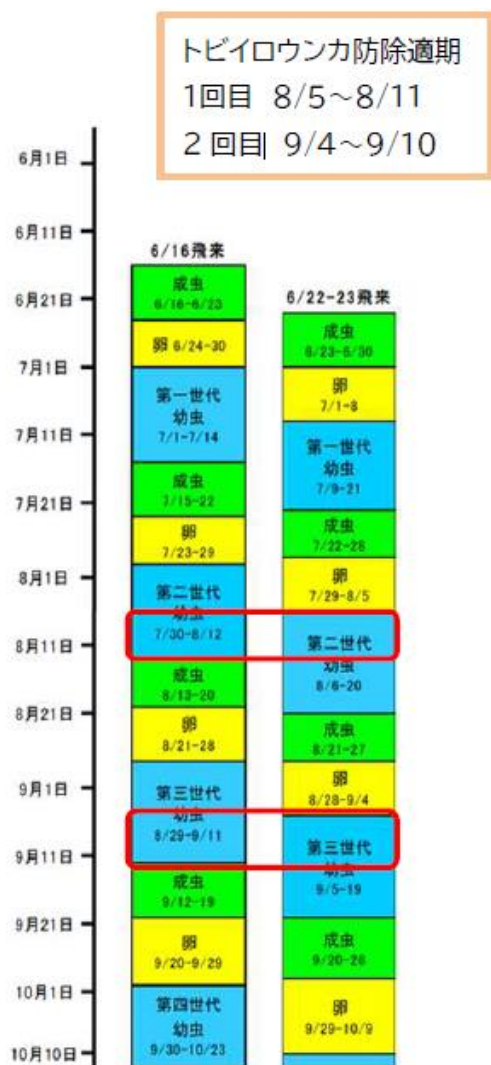
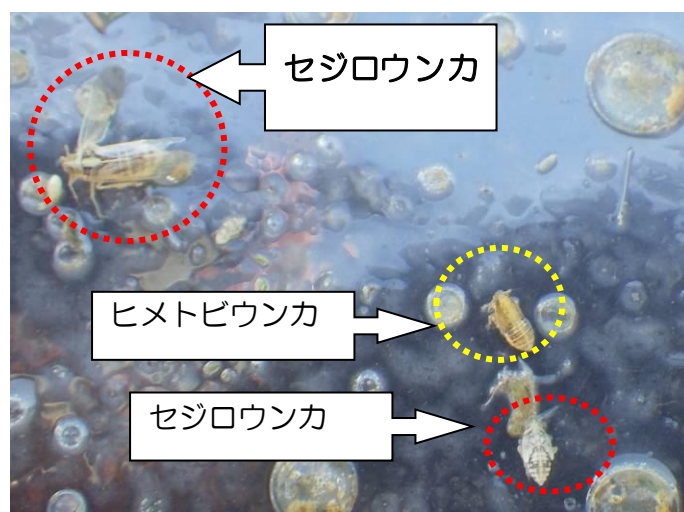
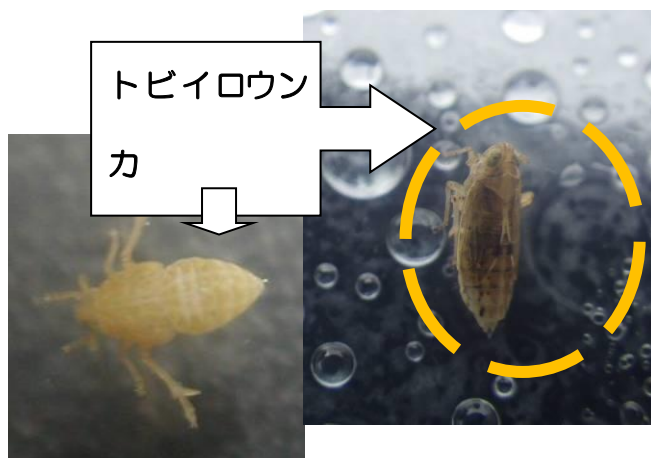


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2025年7月2日作成)



図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第1版、2025年7月2日作成)



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	○ : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	○ : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	○ : 斜め後ろ

5. 今後の大豆の管理について

○7月上旬ごろの晴れ間に播種された圃場では、本葉5～6葉期を迎えている。

7月下旬に播種した圃場では、初正葉～本葉展開期を向かっている。

1) 干ばつ対策について

○乾燥で大豆が萎れ始めている圃場での対応

- ・7/21以降、降雨がほとんど見られず圃場の土壌が乾燥することにより、大豆の葉の縁が内側に巻き込むようになるような姿が見られる圃場が散見される（写真1）。このような圃場では、速やかに夕方以降にうね間灌水を検討する（写真2）。

なお、平うねでの灌水は排水が遅延することから種子の腐敗を招くことが多いので、うね溝を設けるなどの事前作業を実施する。



写真1 乾燥により萎凋した大豆



写真2 大豆での畝間灌水の状況（R6.8月）

注：うね間灌水後は雑草の発生が多くなるため早めに除草剤散布等の雑草対策を行う。

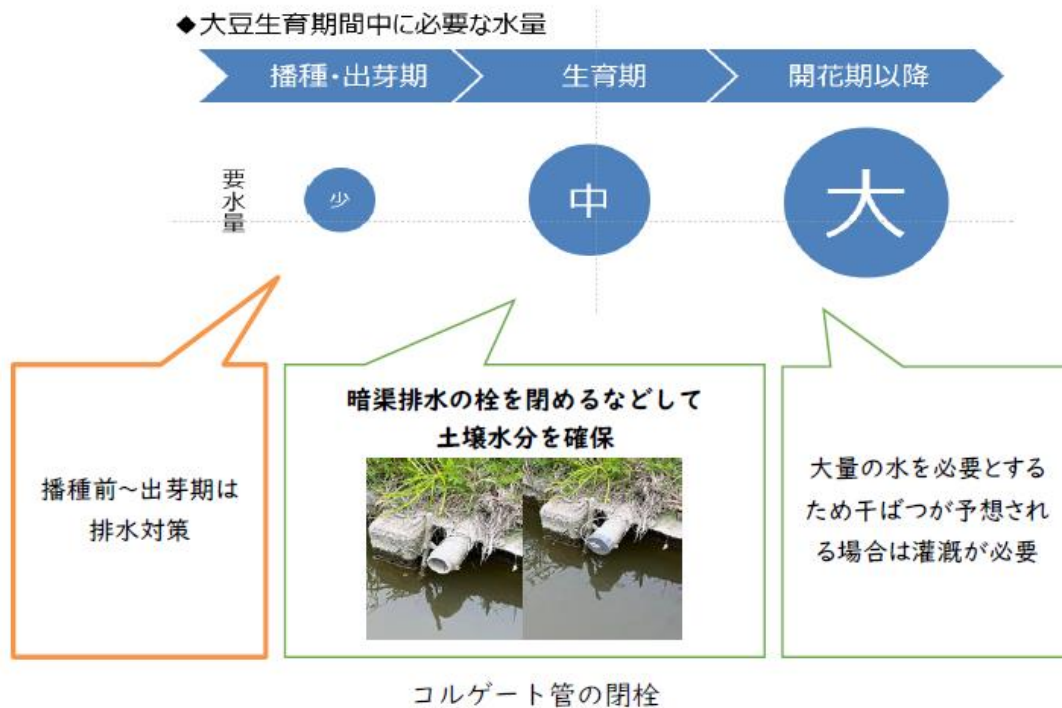
【畝間灌水のポイント】

- ・圃場が白乾しひび割れした状態になる前に灌水を行うようにする。

（過乾燥状態になると土壌内部に亀裂が入り、畝間灌水しても圃場の先端まで水が行き渡らない。）

注：うね間灌水後は雑草の発生が多くなるため早めに除草剤散布等の雑草対策を行う。

○コルゲート管の閉栓が土壌水分確保に有効であるので、コルゲート管は閉め、土壌水分を確保する。



(1) 中耕・培土

①中耕・培土には様々な効果があり、積極的に収量を上げるための重要な作業である。

中耕・培土の主な効果

- 培土部分からの不定根の発生を促進し、養水分の吸収をよくする。
- 株元に土を寄せて、倒伏を防止する
- 土壌を膨軟にし、通気性を改善する
- 土壌を攪拌し、雑草の発生を抑える（雑草を防除する）
- 畦が作られ、排水性が向上する（表面排水を促進し湿害を受けにくくする）

○ 1回目（本葉2～3葉期）…生育初期の雑草防除、土壌中への酸素供給。

○ 2回目（本葉4～5葉期）…除草効果＋土壌通気性向上

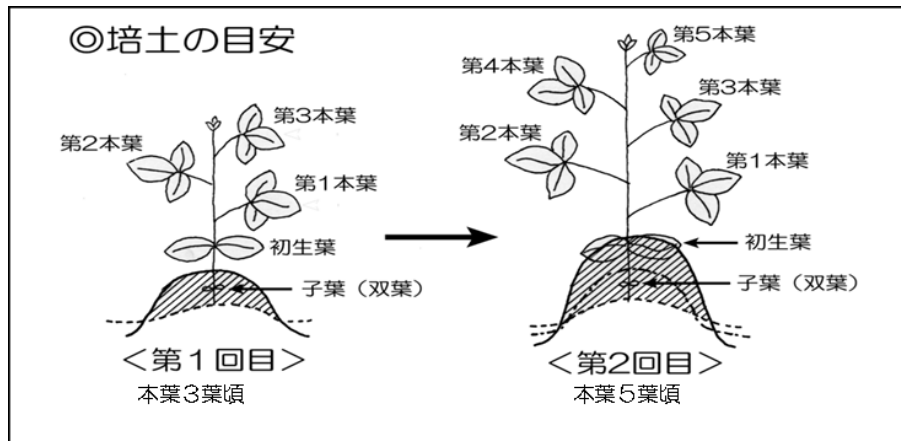
＋新根発生促進 ＋倒伏防止。

※ 培土は開花1週間前までに終了すること！

② 株本まで土がしっかりかかるように行う事（不定根が発生し、根粒菌が活性化。生育が良くなる）

③開花後の中耕は断根による悪影響が大きくなるので開花前に終わる。

④乾燥が続く場合には乾燥を助長するため行わない。（カルチをかけた際、土埃がでるような条件では実施しない）



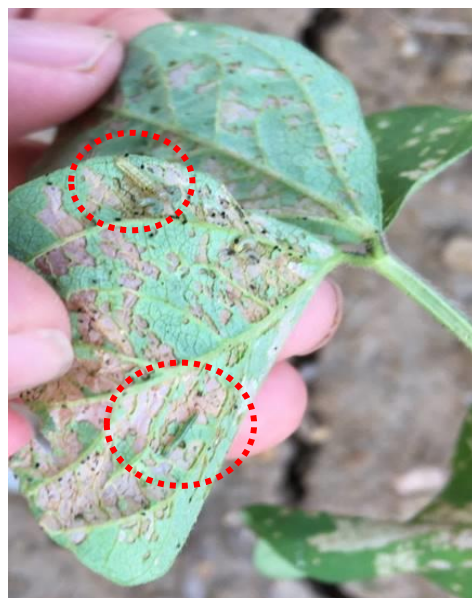
(2) 雑草対策

- ・出芽後の雑草対策としては、生育期除草剤となるので開花時期までに下記の除草剤で対策を行う。近年難防除雑草といわれる「アサガオ類」や「ホオズキ類」の発生が目立ってきている。以下に留意して適期防除につなげる。
- ① アサガオ類やホオズキ類等の難防除雑草は、圃場内の侵入を防止することが重要。見つけ次第、手で抜き取る。
- ② 難防除雑草が侵入した圃場は、土壌処理剤と茎葉処理剤を体系処理する。
- ③ アサガオ類では、播種前のトレファノサイド乳剤の土壌混和处理や、大豆バサグラン液剤やアタックショット乳剤、パワーガイザー液剤等の茎葉散布等による防除が有効であるが、完全に抑えることは難しい。
- ④ ホオズキ類では、リニュロンを含む土壌処理剤（ラクサー乳剤等）や、アタックショット乳剤による茎葉処理の効果が高い。
- ⑤ ツユクサ類は「プリグロックスL」や茎葉処理剤（大豆バサグラン等）での除草を行う

(3) 病虫害防除

① ハスモンヨトウ

- ・ 白変葉が散見され始める時に1回目の防除を行い、その後は発生量考慮して10～15日間隔で防除を行う。
- ・ フェロモントラップを設置している地区やほ場においては、8月下旬～9月下旬にフェロモンによる誘殺数が増加するとは場内の白変葉も増加する傾向がある。従って、フェロモントラップの誘殺数が急増した時に、ほ場での白変葉やハスモンヨトウの発生状況を調査して防除要否を判断する。
- ・ ハスモンヨトウは1回目の適期防除を行っても、その後の追加防除はその年の気象条件やほ場によって異なる。特に、夏期が高温で経過し、大豆の生育が良好な年は、大豆白変葉の観察やフェロモントラップ調査をこまめに行い、防除が必要と判断された場合は、早急に追加防除を行う。
- ・ 農薬が茎葉内部及び着莢部に十分到達するように散布する。
- ・ ハスモンヨトウには、フェニックスフロアブル、プレバソンフロアブルは感受性が低下しており、使用を避ける。
- ・ 地上散布において展着剤としてササラを加用することで、調整時の泡立ちが抑えられるとともに、湿展性が向上する。



②【オオタバコガ・ウワバ類】

- ・ 気象予報では高温少雨が予測され、ハスモンヨトウと同様に、多発生の条件となっている。
- ・ 葉に大きな穴が開いた株が目立ち、周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高くウワバ類やシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。
- ・ オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンに感受性が低下しているため使用を避ける。

表1. 防除薬剤（効果が高い薬剤）

	ハスモンヨトウ	オオタバコガ、シロイチモジヨトウ
薬剤名	プロフレア, グレーシア, プレオ, ディアナ等	プロフレア, グレーシア, プレオ, 等